



門 係 3
3.6.15
卷 5 止

光臺一覽卷之五

將軍上洛

百官諸司四分名目

外國官

三種神室

百姓姓名

女官名目

上中下國

詔書宣命

尼御所



寛永三年

明照院淨隆延

即身也

寛永十一日戌年

今室曆十庚午

と凡右三年計

京中北職者たる二系行幸八式主之
寛永初年大去願一之御心所より
の御府と此為被一式書記一之今其
又仁皮也は中一未及中如く一書記
乃更たれ一書記一之御心所又之
亦け書記一之書記一之御心所
禁書一の御心所一之御心所
真の御心所の御心所一之御心所
三列金右取の御心所一之御心所

次身所一之御心所一之御心所
親王方一之御心所一之御心所
奏所一之御心所一之御心所
大伴御息所一之御心所一之御心所
代右取在是こ一之御心所一之御心所
御心所一之御心所一之御心所
今け御心所一之御心所一之御心所
御心所一之御心所一之御心所
御心所一之御心所一之御心所

入部とく後陣の庵垣の筋をふり
ゆも二条志沙いおより高取竹妻あゝ是脱
近元系修一と心持帰に幻ひ定入部
らう脱近元十九あゝ

兼亭 三系也 馬丸

日野 二助所 一身器

柳系 二廣橋 龍井

言念 二系 山科

橋本 二泉下 梅屋

堀川 竹内 土河 舟橋

の二是利あゝ又大樹と脱して小伽花也
奥付定く利二脱中く多取英台夏函
事にあ司名代く夜等木の他地洋礼を
知は也給ぬ沙系中の政に少力には毛の
系府え也けと河にく系物沙伊あめ
一柳岸一不音のくまに不系一不妻
は着代まくとも力二系一幻燈一沙
譜代舞に沙例あゝ入のあゝに心用又

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

四足門の俗語也
天祐なりぬの
心ちがい交枝の
に表裏の柱に
かたねのり也
寛の冠木門也
と真の式也
樓向也異の樓
流棟也外表
に柱は木心柱を
おける棟門也
本位のご有る
木包木口交枝也

浄伽り給の心
とあり道中驛
京河成より西
浄法寺と申す
敷西隣に黄
門にお廟あり
行方支とい
の表也表の鳥
施薬院といふ
寺は南にあり
西に塔をたて
悲田院といふ
宗廟といふと
お尋くといふ
醫師のありて
附はるるを括
施薬院典業頭
三云信法中
住持也

云論唐令と包
也包凡樓中
其冠及の
を包くが棟を
余のりあり
教王法教も
実建法今に
如くあるは
む取はら
各院棟也

浄伽り給の心
とあり道中驛
京河成より西
浄法寺と申す
敷西隣に黄
門にお廟あり
行方支とい
の表也表の鳥
施薬院といふ
寺は南にあり
西に塔をたて
悲田院といふ
宗廟といふと
お尋くといふ
醫師のありて
附はるるを括
施薬院典業頭
三云信法中
住持也

河内
三好中
あり

施薬院典業頭三云信法中住持也

浄伽り給の心
とあり道中驛
京河成より西
浄法寺と申す
敷西隣に黄
門にお廟あり
行方支とい
の表也表の鳥
施薬院といふ
寺は南にあり
西に塔をたて
悲田院といふ
宗廟といふと
お尋くといふ
醫師のありて
附はるるを括
施薬院典業頭
三云信法中
住持也

右伝新り
系由みは
友平
御
望
の
た
流
取
降
既
也
大
此

取降
降
既
也
大
此
朝
こ

駕輿了
右正府足船
日 沙法人
右正府足船
日 沙法人
右正府足船
右正府足船
右正府足船

首の書にハ勝附
二一く 悔後三人
印方四三徳入道
常義人ハ伊集
包義工を以て
松ろこのあき
に一ふちい合
こちふせ印角
る衆の衆を
く地しき書

お供け入地は遠くを歩かして
駕輿了と云ふおむとや
川に流るるを待て入り
還るに西大寺よりこも
方由この老中の方
不及沙遠は法士者
の幸に流し難を名
の安全に契しちり
坊沙法所也終る
方由まゝと云ふ人
後のはまこや一礼
為長柄院子御
し度は是れ水
界のりやま
と版の正面に
隙近又や位也
と云ふにハ
まゝハ中ハ

少なきと云ふ人
後のはまこや一礼
為長柄院子御
し度は是れ水
界のりやま
と版の正面に
隙近又や位也
と云ふにハ
まゝハ中ハ

武がひのいし軍権中三ぶ方西取すし
元也より又常一ん推之教者人言き
と此方をききせし人 三家の漢人をとり
はれか長也い外天子のいるはににて
ふ者よきこと能くこと言をて一長は
く、いんけつすきり 夏長しと古
つとも時記に 法をにやあつて用く
こ年 係にうく 意取の事はれと
このりりて又つこり

世又法をいふことい世のい教性一教んく
ふのめくもあんなら一教まて威権ふ
宮中のめく天子も地利いふはとあり
いし法をいふはむいりよお法めと述に
秘をいふて言をなれまいし也い法系
はれ人作融ん老源成たゆしとこれにひ也
職五州にとあめああるこえこ今、は女は院
ふれ也は法定のあこやい今、の初母あ君系
ああゆははあふあふの信あめす也

口給々簡に記し一年の節を
わいし支也今もと案せしこと
其の次方札に記し初てたりし欠
其の人、金白と云ふ如くありし者
其欠の人、心腹欠たるは其の
一と申せし事、其の事、其の
乃の復しと云ふ、依て其の代
欠といふこと、又其の如く、
故にれ也

● 推非遣使を
細負之廳に
枕に勅負に
方名に非了
其の事也
浮如多天長年
姫置は別責

● 申右如進補使に在るは、
頼朝の、
夫の、
常し、
刑部省に判断
深心、
滿府し、
其京、
臣甲者、

大藏省租税

右の職を檢非違使の別當に公職
し大内少輔の職を兼て兼て
おしよふの妻の長者給の長と
兼て兼て兼て兼て兼て兼て
非違使の別當也は別當の定に
兼て兼て兼て兼て兼て兼て
と古来より物定に非下を
んと一廳定遠程の兼て兼て
に非下ししは兼て兼て兼て

職有言大理云

國家樞機

歴代重職

実事の余に遠程の兼て兼て兼て

科也跡くく罪に以て兼て兼て兼て

兼て兼て兼て兼て兼て兼て兼て

人の七徳を兼て兼て兼て兼て

七徳

歴代

兼て兼て

兼て兼て

百職

世に兼て兼て兼て兼て

人の人度兼て兼て兼て

生れお習文字書兼て兼て

兼て兼て兼て兼て兼て兼て

近習

威こそ出たり奉りしとあり
とまへしと北風にまじりて
人に懐けり人

音後

そのまはつて音聲
にこそ出たりし人

高有

節候のまじりて
おとす由糸着てあり

いそ七流

おとす由糸着てあり

海客度

天子の道育

幻術師

幻術の院定

幻術の院定

親王の令名

何言の史記

今名何方好まざる

今名何方好まざる

夏は巻きたりて

今名何方好まざる

今名何方好まざる

今名何方好まざる

今名何方好まざる

今名何方好まざる

今名何方好まざる

今名何方好まざる

信正法年、禁反
の介、元定、元
らそ、い、け、り

三、次、

大信、元、正、法、年、

元、津、原、法、眼、法、

橋、三、原、の、百、任、斗、

一人、方、お、せ、い、人、格、

ち、格、こ、も、い、合、ち、

又、作、之、信、之、次、

お、り、及、あ、い、也、

今、ち、の、又、お、り、花、

通、治、り、を、此、象、

二、方、の、一、次、と、坊、友、

の、こ、と、こ、つ、こ、ま、

四、式、に、よ、り、也、

お、り、元、正、法、年、

村、親、善、を、と、り、

元、正、法、年、の、今、ち、

合、有、

一、可、為、主、院、信、持、事、

大、是、ち、也、

河、原、の、也、

次、法、眼、元、正、法、年、
元、正、法、年、の、元、定、元、
元、津、原、法、眼、法、

橋、三、原、の、百、任、斗、

一人、方、お、せ、い、人、格、

ち、格、こ、も、い、合、ち、

又、作、之、信、之、次、

お、り、及、あ、い、也、

今、ち、の、又、お、り、花、

通、治、り、を、此、象、

二、方、の、一、次、と、坊、友、

の、こ、と、こ、つ、こ、ま、

四、式、に、よ、り、也、

お、り、元、正、法、年、

村、親、善、を、と、り、

元、正、法、年、の、今、ち、

合、有、

一、可、為、主、院、信、持、事、

大、是、ち、也、

河、原、の、也、

元、正、法、年、の、元、定、元、

元、津、原、法、眼、法、

橋、三、原、の、百、任、斗、

授傍心
多量月。七列ケ

何法中

大仙は格式、と
いふのち格、と
すの格、と、
法中、と、
け、と、
さ、と、
華、と、

△
つらむ難勅法、
幸、
た、
め、

令旨

お、
何、
修、
下、
授、
所、

おはあ、
令旨、

た、
と、
し、
し、
ち、
う、
う、

既、
新、
詳、
難、
う、
ち、
何、
次、
い、

雜務法中

書局

信長坊是渡邊

△三宮院下、いふ、如し

許可状

安山寺是院

相傳寺是院中

二所渡邊寺之方

二所執務方

三宮院教所

信長也

信長御法中

長身丹分 寺別

西取

信長御法中

或

信長御法中

信長御法中

寺別

信長御法中

也寺に之出又其人は寺の御法人に定

定し也む親方有違は御職より

しせしむ也沙職より定也三年三

ノ寺の信長御法中、寺中は

寺人の檢校の中より、次奉りて久事友、又

以て更願奉るる所の御職、是は御法中

沙職格式總の宗樂は宗法也

知りし時、是等の句に、寺中檢校格

久事友、寺中、信長御法中、寺中

宗法、寺中、檢校格、是、是れ、寺中

信長御法中、御職を、是、是れ、代、御職

と、御職格、是、是れ、是、是れ、御職

とい、御職格、是、是れ、是、是れ、御職

、是れ、是れ、是れ、是れ、御職

檢校、是れ、是れ、是れ、御職

か、是れ、是れ、是れ、御職

也方多一城方始乃二流檢校女讀
杖句多一江流及檢校句意自一
右行多修之檢校二句乃有相句意
檢校之句之句乃可以編書之句人
亦家之法之句

久我致家

●馬藏 豐川檢校在江沙房 休閑和泉

如新格或一七 以了句句之句也

●長知秋城之松平長門公兼大儀人史叙
之利家 每年承首に格平一節り也人
在事の人之史述こそわらぬに注返る也
注見七一頁を

一物奉給上紙雖嚴定一節

而乃其先以

標書致信而後據能辨於此

出収書控有付以依之存取言

二所収帳目通年数之

右取立取有作

奏園信 右廣瀬河内守

長門侍従

十二月三日

右廣瀬河内守

在田お入所取

三所取立取有作

如所取立取有作一也

作

昔札致披笈以雖高毛と市以

出取 禁書取信河内守

渡河之収之存取有作

以收帳目通年数之

衣之教達

大龍海

處渡惟也

六年不斜

所及以別少后年書為

二以百石原遺山此之待中

十二月

保春
資案

長門信長

此初也亦二年長年書意に准

云了

朝解人來聘の旨に安東より大

江元子より分檻机三柳中身より幻

星也書查察より洞進も也む下以

江下也朝解より進んで人々色也

榎原院方より此れ分より一より以鉄

上を例より一より以鉄

一病致此道以之

禁書教培涉待孺能亦如

臨道思公狀物以度朝

轉且聘人言十行

幻教涉進缺以石

宣皇奏笑以器

田山城寺

其去去列

和年紀行

徑上廣曰

久世人和寺

主之川

并之江内

正界川

何月

乙卯秋獲奇

丙午

通今人納古款

在田亦天納款

丙午

昔北政披軍以之只

禁軍信涕涕疑疑疑

清石以爲及 國古珍重止

思古惟余今寂朝鮮人轉來

聘人爲 十斤 緞子 丁卷 清進款

丁被成以不之款遂 奉進款

天竺の文 殿威の斜

浮世の如く如く如く如く如く

冥土の如く如く如く如く

十月 立降 公全

公全相授身致

并上河内身致

久世大相身致

相平紀傳身致

平田相傳身致

多文字の如く如く如く如く如く

多文字の如く

Handwritten calligraphy on the left page, featuring several vertical columns of characters in cursive style. Red numbers 1 through 10 are written above the characters, likely indicating stroke order or sequence. The characters are arranged in a roughly grid-like pattern across the page.

Handwritten calligraphy on the right page, featuring several vertical columns of characters in cursive style. Red numbers 1 through 15 are written above the characters, likely indicating stroke order or sequence. The characters are arranged in a roughly grid-like pattern across the page.

志あるを 志通ひ流し 松尾長清
かゝる 志通ひを 切實に 身付奉る元
江原入 志通ひ 志通ひ 志通ひの友
志にわたり 志通ひ 志通ひ 志通ひの友
志通ひ 志通ひ 志通ひ 志通ひの友
志通ひ 志通ひ 志通ひ 志通ひの友
志通ひ 志通ひ 志通ひ 志通ひの友
志通ひ 志通ひ 志通ひ 志通ひの友
志通ひ 志通ひ 志通ひ 志通ひの友
志通ひ 志通ひ 志通ひ 志通ひの友
志通ひ 志通ひ 志通ひ 志通ひの友

志通ひ 志通ひ 志通ひ 志通ひの友

志通ひ 志通ひ 志通ひ 志通ひの友

凡実東馬代路に二つ申す中法集
中馬代とて其の極致をたると
ふ下大カ流の事厨をて以て其
中よりカカにとも既とす其の由供
こく事厨をて以て其下流路をて也
之外法家カカ流の事法はこく亭にて
法集下流路たる事法代 是の由院
法集云
亭法の家法事法は法は法は法
法法同カカ和集カカ法にて其法
其のより其のこく法は八の法と法
之也法集カカ觸流一をて川集
其法集法家のカカも也法は席
の法は其の事上の事に其の法一列
こく事カカカ七八法集事カカ法
其法有法法集一列を其和集カカ
そのの法手に其法一カ列カカカ
其法法集一呼立らる勝之に法集
其法は其の事上の事カカカカ

甚意大徳をこゝ初めを所呼すはる

配也唯新しき一は法すの物とく

下りありあつ時初めを教ふこのめ

河東中下れはあをほけりてはまた

類の通は下ここち又も配こゝあて頂

載しとく甲辰のゆゑは河東に望

記止るるゆゑこゝとてた人たは

當り河東中下れゆゑは初めを

河東中下れゆゑは初めを

夫れ曰るるにさゆしとてた人たは

こゝとてた人たは

河東中下れゆゑは初めを

とてた人たは

河東中下れゆゑは初めを

河東中下れゆゑは初めを

河東中下れゆゑは初めを

河東中下れゆゑは初めを

河東中下れゆゑは初めを

口弁は遠くをいふも長かきしり
幻の事も亦今なき事古也
と利便も天子に出来ぬは
いふ事もある今たは
とこしやうの御事なるも
す又おぼしめすに
こころに日なり
あまに
今道はとく又也い
と



征夷將軍にけりし
今治も
の事かして
大守^とか
格成
代
は長
補

本治國大権在人^{而勢}
一區之度不可也

御階の位は年毎に補するに由り
すつとくもあつたやうな
供し御家の大御冠は御家の御
以来の古式代々大下補伊の位に
中納言清涼の御家の御家の
大納言を云々若屋より起す時の威
權に任せてありしは御家の御
豊臣姓の御家の御家の御家の
清く御家の御家の御家の御家の
なりし大納言は又御家の御家の
言はれに御家の御家の御家の御
あつた凡そ御家の御家の御家の
いふ御家の御家の御家の御家の
御家の御家の御家の御家の御家の
の御家の御家の御家の御家の御
その御家の御家の御家の御家の
御家の御家の御家の御家の御家の
御家の御家の御家の御家の御家の

例にふらして初由の御事なり

百官法司以り之同字を以て違

△准后親唐の授
先例なり
神祇官

神祇に違ふ雖少なるも
友法左位に書之は至心友

△物 准后下近代三位 王氏と稱す

白川家のこと傳 案人書せし

△大副 准后 准后下
上中下に分

△少副 准后 正六位上
中下の三冊
よし任し

△大祿 准后 准后下
大祿公下は右

△大史 准后 准后下
大史公下は右

石名白川 准后 大史 准后 准后下 大史 准后 准后下 大史 准后 准后下 大史 准后 准后下

右に五院律 右に齊制 故人等と
に以て性なり

公著の字名同二卷月とあり

珮 輔 大少凡 丞 録

監物局 是機司也 以友若れおれに
向てなり也

大監物 注古律下 志古律と云

少監物 注古律下

主典 注古律下

主鈴 大 注古律下
少 注古律上

典鑑 大 注古律下
少 注古律上

東宮 皇太子 皇太后宮

皇太子宮 中宮 大膳

修理 大東大東

下は古心職
三十九方也

大吏 権を 亮 権を

進 大少を 屬 相委くは 為るを

右中 守書官 友 傳 ことごとく也

十九 蔡 望 守

頭 権を 帥 元 屬

十五 蔡 老 各 八 有 の 被 友 たり

大 今 夕 人 号 書 内 花

總 叙 臨 場 内 近 各 中 務 被 友

大 字 或 子 有 被 友 雅 示 玄 葛

依 陵 上 守 者 被 友 日 計

主 祝 上 守 者 被 友 本 工

大 殿 之 叙 典 茶 掃 納

上 守 者 被 友 亦 官 八 者 の 中 に 不 属 下 守 友

去庫

此有古に不腐一方及此
五字ありしは外

左馬

素

右馬

聲は二方
百方

此世一素字之同右道同以

認有字

正佐 令 史

集人

言者
被友

囚獄

刑者
被友

織物 大龜者被友

逆例

正親

内膳

采女

之水

此言印者
被友

東市

此言
被友

西市

此言織
被友

此言方印也

舟院

禱儀

此言志令儀人
也

此二五同の字は此言の傳り也

法使の官

長友 次友 判友 主典

升院使 瑞福使

修理宮使 送使 奉立

院使 防野使

却解使

△但每却解使は古く久四葉には延暦
地利首を抗天子の必終たしむるは
た而察州安河中法王寺に於て
解たんをいふと年次は正しく却を
西月の台を正しくするは
つし

△私按するに云く法王の寺は正しく
を正しくし一年中法王寺に
のまゝ二年に及ぶ事なり

この二年よりなまの節へて印を
ついでとせしむる解の法由乃
さうし細るる真^とは幸年^とに印
定する是なり^と法由のさうしと有り
和^と正税^との解^とこもくく書れし
印の判を別^と之^とに法由^と印
の之^と又^と長^とと^と解^とと^と法由^とに
長^とに^と中^とと^と法由^とと^と友^とと^と中^とに
長^とに^と中^とと^と法由^とと^と友^とと^と中^とに
長^とに^と中^とと^と法由^とと^と友^とと^と中^とに

子の心念に細るるの移動するに解
この法由^と又^と長^とと^と解^とと^と法由^とに
の解^との^と中^とと^と法由^とと^と友^とと^と中^とに
なり

別歩の府

檢非違違別考

今^と案^と東^とに^とは^と付^とて^とい^との^と職^とを^とれ^と葉
中^との^と心^とを^と入^と用^との^と時^とに^と別^と考^と代
は^とと^と知^と大^と回^とこ^とい^とる^と意^とを^と案^と大^との^と意^と

河に在りて書りて檢非違使の
別處とありて是なり

作 多人 延尉之云

は作いふの百有の如く何れ作部作を
有るいふもいふまじく人々同封
多お作するに之に別撰非違使
の作を知る友也 余友の客の名
友志相とていふは是の如く

中に作に中や也 予之依と云友志
は作の如くなりと云ふは

尉 是れ別友と云 別友と云

これと作の如く尉とて別撰非
違使の尉也 別友と云 是の如く也
これと作の如く尉と云 是の如く也

右大尉 右中尉 右少尉 右尉
右大尉 右中尉 右少尉 右尉

今別友の如く是なり

協門 執事

町口 娘山

今別友の如く

府生 右 本府生 右 是也

右者 右 曰一格とく 右 曰一斗云

城 右 村 右 斗 右 志 右 斗

斗志 右 斗 右 府生 右 斗

斗 右 斗 右 斗 右 斗

斗 右 斗 右 斗 右 斗

斗 右 斗 右 斗 右 斗

斗 右 斗 右 斗 右 斗

斗 右 斗 右 斗 右 斗

斗 右 斗 右 斗 右 斗

斗 右 斗 右 斗 右 斗

斗 右 斗 右 斗 右 斗

斗 右 斗 右 斗 右 斗

斗 右 斗 右 斗 右 斗

斗 右 斗 右 斗 右 斗

橋氏長老九条家

斗

斗

大親所別書

示所別書

大學別書

邦人別書

邦人別書 邦人別書以下 邦人

邦人別書 二人

五位邦人

古七位 今八位

邦人別書 邦人

邦人別書 邦人

邦人別書 邦人

邦人別書 邦人

邦人別書 邦人

邦人別書 邦人

長者号三

橘氏長者

橘氏長者 橘氏長者

橘氏長者

橘氏長者 橘氏長者

橘氏長者

橘氏長者 橘氏長者

橘氏長者

橘氏長者 橘氏長者

橘氏長者

橘氏長者 橘氏長者

橘氏長者

橘氏長者 橘氏長者

橘氏長者 橘氏長者

右正侍仲和

右正侍仲和

右正侍少和

右正侍少和

右正侍仲監

右正侍仲監

右正侍仲常

右正侍仲常

右正侍府生

右正侍府生

右正侍副長

右正侍副長

右正侍府

右正侍府

清府

性古清土府之丞 源成帝即位三年 十二月改清府之府之丞

右正侍智人

右正侍智人

右正侍智人

右正侍智人

右正侍仲

右正侍仲

右正侍仲

右正侍仲

右正侍仲

右正侍仲

右正侍仲

右正侍仲

右正侍大尉

右正侍大尉

右多治人封

右多治人封

右多治少封

右多治少封

右多治少封

右多治少封

右多治人志

右多治人志

右多治人志

右多治人志

右多治少志

右多治少志

右多治少志

右多治少志

右多治府生 右多治府生

右多治府生 右多治府生

得正志至四言

平 孰人 彌 大 忠 大 疏 大

坊友之守三司 中官属也

之膳監正 伍 令 史

之敏異首依令史

之馬異首依令史

女友名同一式

女院

准天皇后宮

字

新女院

准皇太后宮

日圓

仲家女御

准皇太后宮の正妃

准后

右准三后之養女

玉母

正妃又皇孫の母也
右准天子降誕したる

也敷主

御宮者正后之宮也

女主

後白河女院の正妃
又皇孫の母也

市息所

御宮の御孫也
御宮の御孫也

後白河女院の御孫也

右之古今の格今よりしるべき事

下親の事 社士の女の事

外玉官

古者支那也嘗ての或家領地統に
任事する者内外地利即或統に
師しそれ西土の各或家といん
何のあらんたる也其率以の及に古代
は是れ西土代ちに勿得也元及地利

税交わ我之にのめせたり

代を志す事也

十六代成務帝元年始定玉造

同六年始分玉境并山川村田園

十七代白皇后五年始令巡驛所

十八代蒙陽帝三年為七代又是玉境

十九代金持帝改玉造為新玉官

廿一代孝德帝又化三年定新玉官

宿次

齊代吳和

李公 丹板 蘇并

豆而 十由

十批 梁楊

武而 勃本批

肥与 長信

桐加 荊根

定柄 根如川

三那 量改 吳

三科 河股

生橋 確水

樓川

三德 松戶 唐川

角川

十法 實者

信德 勢四路

浪川 常川

心川 小龍川

海橋 本官

每不 柳 不 可 殺

小官 大凡 松

齊代 之 武帝 白 鳳 十 二 年 未 又 宣 武

境

齊 宣 武 帝 又 改 武 曰 可 祚 武 曰

世 武 宣 武 帝 元 元

齊 宣 武 帝 元 元 和 綱 志 齊 宣 武 帝

即 歸 志

齊 宣 武 帝 元 元 十 二 年 帝 造 建

江 武 之 武 分 与

齊 宣 武 帝 元 元 十 二 年 帝 改 異 號 異

云 之 者 所 謂 亮 比 矣 魏 分

不 破 矣 姜 德 珍 席 矣 何 樂

文 德 之 朝 廢 荒 地 矣 故 以 初 立 邊

板 矣 而 有 之 矣 而 分 置 矣 東 國

西 之 志 遠 矣 後 依 天 下 大 凡 三

實 又 廢 矣 矣

大國 上圖 中國 下五

已 有 友 之 相 委 信 矣 也 古 相 遠 矣

寛也係し雲し
保正品年冥
江加新舟氏
この旗中飛を
天下の冥不は
風夢くくる也

大國

守

持方を

相變
辰之位上

持日

介

持介を

正六位下

祿

大少を

正七位下

位上

目

大少を

正八位上

位下

上國

守

持方を

辰之位下

持日

介

持介を

辰之位上

祿

大少を

辰七位上

目

辰八位下

右入と申のちに任す時の階位の時
執事の人興つとほは位下と書か多し也
是え其入と申のちの相變り位なるが故也

仲五

守

正六位下

分
右位令、中位の介以下を
取、おきの位階なり

掾
正八位下

月
大御位

十玉

守
位六位下

介
右中位下の可

掾
位八位下

月
少御位

四分、空名

守
刺史 使君 宰吏

牧宰 國宰 大守

介
長吏 別駕

掾
司馬

月
主簿 郡司 縣令

今代孝徳帝
大化元年始
海軍

凡方の相委る位は分御さる位と云
ふは位は下も位し或は上も人の力又
上人の撰古と云ふ也又位は相
委る位と云ふは上も下も等相二位
は位又位は相委る位は上も下も
凡人の病入順壽に於ては多の
時位に任すは通例也伊賀又
亦た上も下も位を兼る也又大伴
細文人等も上も下も位解法は

△大伴由

山城と大和と河内と

和泉と播磨と

△東海道

伊賀と伊弉と志摩と

三橋氏も括正者も人志之に任
白雲寺より遠く地人をも任す
伊賀と伊弉と志摩と

三人より石限
此石は教王に
小寺の石を
移故に云ふ
令移是物也

尾張三河 志保三河

駿河甲斐 信濃下

相模武蔵 安房丹

上總下総 常陸大

上総乃昔後ち二重のさい入ちとて教

王五ヶ所移と信下信より又も何

いふ所の今信出のちに在り

東山道

近江美濃 飛騨下

信濃上野 下野上

上野乃も三人守の中は教王有也

信下は任更不付と總寺信上野

三島の今に金吾のちに甲し也

陸奥大出羽

陸奥の初は梅屋後府と云ふ

△奥州守 桓景使 桓景は伊豫
守志都護を代付ゆゑに
十月二日 記事に云 桓景 都護録事

△鎮守府

將軍一人 桓景は桓景也 建武三年
以来三位以上 守府の將軍より位
大字加し 大字加し 位より位
しるしをもちて

△副將軍 貳人

軍監

四位下

軍曹

位八位上

右 右 守 下 五 十 十 十

右 守 守 守 守
右 守 守 守 守
右 守 守 守 守
右 守 守 守 守
右 守 守 守 守

謙儀 一人 是 將軍別授
右 守 守 守 守 守 守 守 守

右 守 守 守 守 守 守 守 守
右 守 守 守 守 守 守 守 守
右 守 守 守 守 守 守 守 守
右 守 守 守 守 守 守 守 守
右 守 守 守 守 守 守 守 守

沖尾二年に自其命を別し法
府に奉れ之山守の度行し也
又秋田城今おのり分を人兼帝
在是と宮下友なり

水陸道 七ノ玉

高榎 中 誠方 大 加賀 上

能光 中 林作 上 誠後 上

水陸 中

山陰道

舟波 上 舟後 中 他馬 上

因幡 上 伯耆 上 出雲 上

石見 中 徳政 下

山陽道

播磨 大 美作 上 後方 上

伯中 上 備後 上 安藝 上

△
平天元明朝和
洞六年割母殿
子能行母法

初洞六年割
後方去歌行
更他

行直 誠後 抄後

長門 孝法 陸奥

抄初

右 伊流

流河 行跡 古紙

澄後 出流 陸奥

九易 去取 對馬

念 法 到 仁

正 本 日 流 人 中

日 流 罪 志 日 流

刑 又 日 志 法 志 流

至 是 故 玉 亦

念 流 之 志 河 志 以 而

可 河 志 也

伊 流 京 安 矣 矣

大 矣 又 係 者

根 之 大 教 字 之

河 志

志 流 師 由 志 極

新 一 志 多 大 切

し 也 形 依 志 之

之 矣 其 十 一 二

志 極 志 歟

伊 公 日 以 終

流 志 之 流 志 之 肥 志 上

北 流 大 豐 志 上 其 後 上

日 向 中 入 偶 中 之 陸 摩 中

志 政 下 對 馬 下

右 流 志 之 志 亦 友 志 志 志 代

志 亦 友 志 志 中 之 志 亦 友 志 志

志 亦 友 志 志 志 志 志 志 志 志

伊 志 亦 友 志 志 志 志 志 志 志 志

伊 志 亦 友 志 志 志 志 志 志 志 志

伊 志 亦 友 志 志 志 志 志 志 志 志

伊 志 亦 友 志 志 志 志 志 志 志 志

伊 志 亦 友 志 志 志 志 志 志 志 志

伊 志 亦 友 志 志 志 志 志 志 志 志

伊 志 亦 友 志 志 志 志 志 志 志 志

伊 志 亦 友 志 志 志 志 志 志 志 志

伊 志 亦 友 志 志 志 志 志 志 志 志

伊 志 亦 友 志 志 志 志 志 志 志 志

不道を流 道
河内ありし
永を流

右の流利の

流分あり
次男は長太郎と云

並平七郎氏高家
振運意欲天子

右例し之を記す
内も天子と云ふ

に近所の長は
也云ふ云々少抄抄

と云ふ云々右云々

二十人技物云々

いふ云々人技物大

云々格云々云々

云々心割合云々

之類云々云々人云

技物云々庶人自

分して云々業或云

仁臣欲か其妹

又仁臣云々云

類也

云々橋云々云々云々
由政子孫氏の位

云々云々云々云々
永+任張

云々云々

或紀云 聖武帝天平十五年始 在筑前

福西府云々 有大寧寺 延元十

年 任張云々云々

續日本紀云 淳和代 孝維帝 天智宮字

二丁 百年 執法云々 云々 任張

或紀云 任張 帝 永元七年 七月 執法云

云々 云々 云々 云々 任張 云々 云々

若任張 云々 云々 他云 任下也 友云 若

九 初二 任張 自出 初也

又云 任張 有 其 是 云 云 云 云 云 云 云

云 云 云 云 云 云 云 云 云 云 云 云 云

三種神寶 枕雲 任張 別在 中 也

三夜相致に御法座せしむ甲申の

石 萬幡豊秋津姫令下

仲 皇太神宮御靈八坂瓊御統

左 天手力雄 令下

あつ安正一とありぬ今のお宮の
いこたれとありぬ皇女^とにひく^と宮一

婿ありてい^と入姫の令下婿は

素向王^と又^と信雅の令下にあり

後^と皇女院の皇女^と皇子^との^と教^と主^との^とい

及^と新^と徳^とせり^との^とあ^とし^との^とあ^と宮^とに^と定^とら

る^とあ^とい^とは^とま^とは^と他^とに^と之^とは^と皇^と女

に^と卜^と定^とること^とに^と公^と定^とり^と後^と今^と年

に^と八月^との^と甲^と申^との^と月^とと^と此^との^と宮^とに

は^とむ^とひ^とて^とな^とれ^とり^と行^と勢^との^と素^と向^とを^と一^と又

か^とり^と成^とお^との^と秘^と書^との^と本^とは^と古^と新^と宮^と年

と^とて^と大^と神^と宮^との^とい^とい^とは^と後^とあり^とり^と海^と原

野^との^と宮^との^とい^とふ

江^と得^と比^と布^と院

毛^とり^との^とい^とふ

河^と而^との^とい^とふ

一^と下^との^とい^とふ

一^との^とい^とふ

一^との^とい^とふ

一^との^とい^とふ

一川陽村末を

栢川と

右も左も

の境

右も左も

此河の大和流にわたりては水は流むに

り大和の流にそむひ河は

そ也是も定くそむひては

く下りに入流をそむひ

おこいそむひの海流は

此河のそむひ大和流の

駄橋をそむひ也今に

栢川も定くそむひ

池大和流のそむひ

此河のそむひ大和流

の物 白川家 侍勢

又別也む職掌のそむひ

△丹波の流は右丹波

と名井り京にそむひ

こもあむひの雄略

に也官の死定に因て

此河のそむひ山田

藤原家

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

社社亦宮を移すにこの山人姓屋家
此に以て遷移くあつたけりた
用名向の移すにけりた
江古より天子の命にて
天子の命に依りて
中にとすに自ら及理波の流
すに依りて信譽の
移すに依りて
移すに依りて
移すに依りて

東例
五子所通夾門

社亦院を移すに依りて
及りての夏に依りて
始靈元院
明神に依りて
一に社司
一に社司
一に社司
一に社司
一に社司
一に社司
一に社司
一に社司
一に社司
一に社司

あまのついでに
細きまに似たり
信流の初伝せし
併^并女也
道こく
道こく

社なり
其地
是意
能傳
行教
命一
回中
主

が体係託は沙汰ごともふれどもや
故に沙汰係事案の如く身付ゆゑに
の如く或る突を^と我の業河を止む
又女人法我ならんご大州をたらし
の法あり又僧徒の私を^{ハナシ}風俗^{ハナシ}に
福^と及教の度中に吾友を創を授命
しく^{ハナシ}まを^{ハナシ}之を^{ハナシ}ち^{ハナシ}に^{ハナシ}福^と人^{ハナシ}
福^とに^{ハナシ}礼^とす^{ハナシ}所の^{ハナシ}是^{ハナシ}古^{ハナシ}懐^と世^{ハナシ}を^{ハナシ}振^と也

あつた大竹津大振次ごめやけごめ
しち^{ハナシ}う^{ハナシ}人の^{ハナシ}字^{ハナシ}加^{ハナシ}ら^{ハナシ}む^{ハナシ}人^{ハナシ}の^{ハナシ}也
も^{ハナシ}て^{ハナシ}作^{ハナシ}れ^{ハナシ}社^{ハナシ}司^{ハナシ}の^{ハナシ}人^{ハナシ}の^{ハナシ}如^{ハナシ}き^{ハナシ}く^{ハナシ}小^{ハナシ}福^と
私^{ハナシ}か^{ハナシ}大^{ハナシ}字^{ハナシ}を^{ハナシ}加^{ハナシ}す^{ハナシ}友^{ハナシ}と^{ハナシ}ま^{ハナシ}の^{ハナシ}名^{ハナシ}に^{ハナシ}教^{ハナシ}也
去^{ハナシ}り^{ハナシ}一^{ハナシ}沖^{ハナシ}佛^{ハナシ}と^{ハナシ}盛^{ハナシ}衰^{ハナシ}時^{ハナシ}か^{ハナシ}は^{ハナシ}ひ^{ハナシ}運^{ハナシ}の^{ハナシ}
是^{ハナシ}枯^{ハナシ}の^{ハナシ}信^{ハナシ}り^{ハナシ}津^{ハナシ}か^{ハナシ}も^{ハナシ}あ^{ハナシ}け^{ハナシ}に^{ハナシ}法^{ハナシ}は^{ハナシ}お
七^{ハナシ}聖^{ハナシ}賢^{ハナシ}の^{ハナシ}こ^{ハナシ}に^{ハナシ}信^{ハナシ}り^{ハナシ}て^{ハナシ}世^{ハナシ}の^{ハナシ}件^{ハナシ}
の^{ハナシ}多^{ハナシ}し^{ハナシ}を^{ハナシ}し^{ハナシ}と^{ハナシ}く^{ハナシ}に^{ハナシ}信^{ハナシ}り^{ハナシ}て^{ハナシ}世^{ハナシ}の^{ハナシ}件^{ハナシ}

秀在云に抄撰しきこし我々山と
今のみ推しそりしこ孔とと徳同
の和にあひもひ或は糧をて用毫
たはれしちの運不道皇土の
吾泰津和も多人と不付不
唯ふくは津和をををわらぬ
甲乙と記すし次 官例例
謚號雜記曰之知三年正二月
初賜榮照大権現宮之号同年
三月九日贈正一位南光坊大僧正天
海奉 鈞命而目勅諸野初日光山
之奉仕封禪彼山矣毎年四月十
七日建例幣使納官物於彼宮
云々之度官号江 官号下の子の法
山乃復矣

● 詔書宣命之字

勅法無取捨用貴臨機
時有循環心存應物明
珠不避濁水大聖寧守
一隅哉慈昌和尚淨社
英雄教門碩匠智辯濶
起如收萬水之朝才德
斗明似受卑星之拱引攝
十惡之安性濟度三界之
迷靈親對
龍顏黼座奏安心之秘要
益皇吾之布褶舉達者
之美譽肆加褒章新添
宸翰特賜普光觀智國師
之號

慶長十五年七月十九日

石者後陽成院北山内大臣家康公御
菩提の所は戸芝之邊山廣度院僧
とら十云け樂官山源卷三三島お應
和也也也所との和書如は外をたつ
の將を又勺次分と也

勅王法與佛法比等内外貴
典章朝家同釋家定律
都鄙仰與盛淨土開祖
源空上人先究聖道之
教后闢淨土之宗請弥陀
誓願於胸次感善道等提

擿於定中，覩寶樹照故
境，內證益明，步金蓮現
靈光，密因忽露，而是因
身如來，何疑執至，推跡
三朝帝師，德皇當時，四海

良導，行應表代，皇化
廣布，率土法要，永傳
普天，特謚號圓光大師

元祿十年正月十八日

大僧長官大僧正淨光

百十尺東山院
淨光在位也

深定法華上人入修多之縁也

正月十五日、法華念ふに、丁丑年、乙酉年

年、未、初、使、伏、系、少、師、之、宣、通、於、在

人之、若、通、神、也、予、共、矣、し、中

法華、に、多、し、ひ、は、書、て、十八、三、字、天子

自、躬、念、書、あ、く、老、病、也、執、の、執、也

宮、今、り、予、し、は、口、中、二、字、い、つ、と、ん、と

知、る、也、万一、法、師、の、法、師、の、法、師、の

此、代、を、も、く、り、身、の、長、生、今、書、給、

好、り、又、な、り

宣命、△、蓋、也

綸、△、口、宣、也

宿、△、命、也

若、△、何、儀、也、△、△

至、△、い、何、古、也

紙、△、屋、川、△、△

一、△、△、川、△、△

勅、圓、光、大、師、者、勢、至、權、跡、

慧、日、熙、々、高、輝、台、嶽、之、上、

宗、風、穆、々、始、開、淨、土、之、源、

念、佛、三、昧、深、示、群、生、之、

新元川の法
彼身海より
紙に川の志を
今もそとに書

蘊誓書一紙固結四衆
之心非師之泛慈航誰
離苦海每人哉能來寶
筏自濟迷川遺教邇亦
爰徧六十州郡仍重
寵章加謚東漸號

百十五代中興院
沙在位

寶永八年正月十八日

南光大師の
とす西忌
山門花頂の
物類揚の
聖元比の御書
十八の御便定
今下細
古言教と石原
御令の臣書

南光大師の徽号の宣令の字也
徽号のいふ此大師号の号をさすに重
るり下徽に膠のふやとがと祿
すたのふの漢とて華嚴の法源
香家大師沈観の又又御書
の善道寺光明大師の如くに御書

此寺之東漸大原之稱也
當永八寺中身之師五百身
中寺古名是院山之二不首統教王
道傳以之勅分所法度其地之古
今未名之入法今詳集野之
云計那之勅使示松少他之由是
之宮之合也其細平之志其古之
純信純善之師之人南之京北亦士
人言其校一詳列了

乃鹿口沙流寸松東紀信廣教
寺社所修年以安友諸師寺寺中根
資伏之沙之後建勅也通其友者之
也

死結林善寺寺
寺本檀林
化連淨福寺
寺本檀林
彌意走竹寺
寺本檀林

時方丈
前住善尊寺淨福光明現任知是院
十二世相蓮社應答大僧正與阿孫
陀佛實空正上人圓理大和尚
寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺
額心寺山門揚靈元院

長年也之且中業 酬料字入谷
ち、勅家後多良院とて所帝之原
河内郡勢立寺、亦通園の勅額
河内郡勢立寺は、勅書後山門
幕に十乘と稱示建、十乘と字
道風し、亦通園に記せり

年中の事、秋公に二系、実白の所統
西法に年中に、唐三後、白教の在始、
法皇、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、

御主人
御主人
御主人

其の如く、女を志く、唐三後、白教の在始、
志く、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、
二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、
三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、
四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、
五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、
六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、
七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、
八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、
九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、
を供する也

延喜式曰、屠獲一劑、治悪氣、温
疫、辟邪氣、之毒、氣、云々

本州綱目云屠獲酒者陳延之
小品方云以葦阮方也元旦飲之
辟溫瘧一切不正之氣造方也

赤木 桂心 各七錢 防風 二兩

菝葜 五錢 蜀椒 桔梗

大黃 各七錢 烏頭 二錢五分

赤小豆 十四箇 各調合

詩曰老至居人下
崔寔曰良月令曰
古昔元日進椒柏
酒次第從少至
老今屠獲其遺
意也以少者得年
先以賀老者失
年故後飲

以三角縫囊盛之除夜懸井
中元旦取出置酒中煎數沸
葦家向東從少至長次第飲之
葦澤還投井中歲飲以葦水一世無
病時珍曰蘇魘鬼名以葦屠割鬼
爽故名之

延壽式曰白散一劑元日御菜歲且
以溫湯服五分一家有菜刈一里元
病帶以散病氣皆消

方子... 凡内外鷄鳴咸聞

東海九系致遠戒

先祀祿... 各字七通... 傲焉

次取鏡... 又向... 又磨... 之... 古... 函

次取揚枝... 向... 西... 洗... 手

次遙拜... 帝... 神... 社... 可... 志

佛名

次記... 昨... 事... 其... 者... 其... 年... 其... 終

次取... 盥

次梳頭... 三... 手... 梳... 之... 不... 梳

次... 手... 是... 甲... 其... 陳... 中... 為... 際

次... 擇... 日... 洗... 浴... 其... 一... 度

次... 有... 可... 於... 任... 事... 者... 脫... 衣... 冠... 不

可解... 後... 三... 三

其... 乃... 以... 何... 之... 多... 人... 之... 形... 之... 以... 志... 一... 一

其... 乃

凡内外鷄鳴咸聞

漱衣服、歛枕、簟、灑掃、室堂及庭布席、各隨

其事

おのこゝろの浄遣、穢色をふりに
昔し九和漢の美わ人

百姓之姓銘

源姓 嵯峨源氏 今 仁明源氏 今

文德源氏 今 清和源氏 今 院今 聖女

醍醐源氏 今 村正源氏 今 今

宇多源氏 今 德和源氏 今 院今

之兼源氏 今 光孝源氏 今 大佛源 院今

後之兼源氏 今 順德源氏 今 院今

後深草源氏 今

平 桓武流 今 仁明系 今

光孝系 今 院今 院今

△源 平 藤 橘 大中臣

菅原 安部 良岑 橘本

加茂 神職之加茂氏之縣主之祿也

位吉 和氣 丹波 平野

小野 高橋 惟宗 祝部

穗積 田口 田中 在宗

中原 永原 宗形 菅谷

大江 宮道 蟻川氏也 石濟

長岡 藤井 栗田 阿保

三善 吉備 紀 清科

三統 石川 八多 池上

豐野 豐原 豐臣 皇川

以上之姓 祿朝臣

清原 小笠原 春日 吉野

多治比 大足 奥長 香山

文屋 新文彦 山路 三原

中原 西院

以上 祿貞人

△津守 野見土師也 此三姓个々原系

齋部 个々了 卜部 入麻

小槻 新田 大伴 尾張

柿部 掃守 早佐 山田

多麻神 清海 坂田

弓削 宮原 大足

橋原 坂上 武内 丹治 母系

以上 祿宿祢 日祿家

△秦 高森 長谷部

高市 佐伯 壬生 二集六

十市 河合 鴨 風早

葛城 曾根 城上 御代

清川部 永海 三浦

御館 庵原 一、唐島片

志賀 物部 川上 谷

葛木 中臣 西流有

以上連... 連... 姓銘
大連... 古代... 友名

△百姓四流、姓名如斯、又令流

出雲 高階 秋篠 宗岳

丹波 上毛野 下毛野

狗 多 身人部 立野

右一册
卷之二

尼沙洲方

曇云院故 三意 青泥系
宝镜方故 三意 了也
林鱼方故 三意 竹子几对
买澄方故 三意 麻名
走熊方故 三意 安西小行
三意 文地故 三意 黑门
大聖方故 三意 島九八州与寺

津宮寺殿 三尊 南無

無怒り殿 三尊 口下

法王寺殿 三尊 口下

おしふいあふりおひの時たふりあふり
流るるさし也就王宮をあらわす

先たふりふりいあふり尼河所い

枯式格うさるる白也又

瑞龍寺殿 三尊 村を河をさす

お梅家申ふりふりいあふりあふり

いあふりいあふりいあふりいあふり

いあふりいあふりいあふりいあふり

いあふりいあふりいあふりいあふり

いあふりいあふりいあふりいあふり

いあふりいあふりいあふりいあふり

三時お目院刻 三尊 入はふり入はふり

いあふりいあふりいあふりいあふり

瑞聖院 四七
宝善院 六十二

牛志院 廿七
西宮院 廿七

徳善院 廿七
保善院 廿七

加那院 廿七
善相院 廿七

善正院 廿七
福至院 廿七

徳善院 廿七
字云云

右掲書法名所家息女入令
小舟の流年い人方の元山が友人

このくく新書一もあつた

右掲書臺一覽之書一部立巻書

一巻 抄本 筆本 筆本 筆本 筆本 筆本

執心伝 筆本 筆本 筆本 筆本 筆本

不文文字 筆本 筆本 筆本 筆本 筆本

抽二の書 筆本 筆本 筆本 筆本 筆本

不可不也他人考欵



閑院公長初云正六

勸修寺法皇故内大臣惟實公少男

信達源氏了豐房故臣男孫

隱士 伊達玄庵

長享二乙丑年季夏初九

寶曆十一年庚辰臘日

二階原順生

萬川

梅二水書二種アリ記者ハ二種凡同人ナレド其年号ニ小
差アリ身年号ナリ於テハ男同ナレド夫詞ハ賜ル同ナリ
又年号ノ遠近ヲ以テ考レバ長享ニ在リ原稿ナリ但シ

文詞ハ節畧アリテ詳備セサル一考アリ

明治廿四年春季皇靈祭日校閲卒業 小宮山綿介呈云云

